

福島県浜通りの日本酒一合缶を通じた 新しい飲酒スタイルの醸成と地域産品の発信

【いわき市、浪江町、川内村】×【(株)Agnavi】

1 解決したい地域課題

- ・地域特産品としての日本酒と米の発信
米どころの福島県の日本酒の発信を行う。スタートアップとしての柔軟性と即効力を生かし、浜通り地域の日本酒の普及を行う。
- ・瓶は重く、量が多く、古臭いイメージがあり、若年層などが手に取りにくい。
復興を担う次世代の人口流入、交流人口や関係人口拡大のためには、現代のライフスタイルを先行する魅力的な生活様式・利便性の発信が必要である。

2 実証事業の到達目標

- ・自治体と連携し、日本酒のデザイン・パッケージ・販売手法を検討し、観光資源としての価値を高める。
- ・地域産品を通じた情報発信が展開されることによって関係人口、交流人口の拡大を図る。
- ・日本酒一合缶の生産から充填・販売までのサイクルを構築する。
- ・浜通り地域での安定的な販路を確立する。

3 実施内容



浜通り地域には、東日本大震災により被災した蔵元が3蔵存在しており、いずれも復興を遂げ、現在も日本酒の製造を継続している。これらの蔵元は、全国的に見ても高品質な日本酒を生産しているものの、流通形態は依然として従来の「瓶」のままである。
近年、消費者のライフスタイルは大きく変化しており、日本酒産業においても流通の在り方を見直すことが求められている。このまま従来の流通形態に固執した場合、市場の変化に適応できず、業界全体の衰退につながる可能性がある。こうした背景を踏まえ、本取り組みでは日本酒の流通変革を推進し、より現代の消費スタイルに適応した形での販売・供給を実現することを目的とする。

JAふくしま未来



蔵元様の酒米の仕入れ先である
JAグループ様をご訪問

鈴木酒造店 福島県双葉郡浪江町



四家酒造店 福島県いわき市



福島県ハイテクプラザ



「清酒製造技術研究会@会津若松」登壇。
県内30歳以上が参加。酒米分析など意見交換。



各者の役割

- (生産：蔵元)
- (販路：自治体・Agnavi)
- (企画：Agnavi)
- (広報)

自治体からご紹介いただいた蔵元とのご商談と趣旨説明。
自治体やJAグループからのご紹介にて販路確立と整理。
ラベルデザイン制作。商品開発の経済合理性判断。充填加工。
自治体、実施企業による本事業の情報拡散。

2025年2月末に完成！（計8500本）

4 まとめ（今後の展望）

- <自治体> いわき市：本市地酒の販路拡大による、観光交流人口の増加に向け、今後も積極的に情報発信を行う。
浪江町：実際に開発された商品を確認しながら、引き続き、当町の酒蔵である鈴木酒造様の商品開発・販路拡大という点で協力していきたい。
川内村：本事業を通して川内村の特産品である「歸宴(かえるのうたげ)」を国内外問わず広くPRすることで、関係人口・交流人口の拡大を目指す。
- <企業> ・Agnaviの全買取りであるため、各自治体と連携しながら販売経路の構築を進め、長期的かつ継続的な取り組みとすることを目的とする。
・福島県内における観光流動の促進を図ると共に県内の蔵元と協力関係を強化し、地域全体としての流通改革の実現に向けた枠組みを構築する。

